

ベツ・きゅうり)とした。被検者はいずれの場合も、2人(一定)とし、実験用の台所も一定した。電熱以外の燃料は都市ガスである。実験の順序は無作為とした。時間測定はストップウォッチ時間調査法とし、エネルギー量算出は、演者の測定した家事作業のエネルギー代謝率を用い、かつおぶしけずりのエネルギー代謝率は、手動と電気の場合を被検者3人について測定して、これを用いた。

3. 総所要時間のみを示すと次表のようである。

		家族数 A					
		A ₁		A ₂		A ₃	
手段	被検者	C ₁	C ₂	C ₁	C ₂	C ₁	C ₂
		手段 B ₁	電気	27'06''	26'17''	43'10''	48'24''
手段 B ₂	手動	29'45''	28'30''	49'01''	44'58''	78'46''	67'44''

C-16 家事労働のエネルギー代謝に関する研究 (第4報)

家族数と電気器具の使用が、時間とエネルギー消費におよぼす影響について

茨城大 大森 和子

1. 家事作業の中で、最も大きな部分を占める調理作業について、家族数、使用器具のちがいが、時間やエネルギー消費におよぼす影響を調べる。

2. 家族数は2人、5人、8人の3種類とし、電気器具は、電気かつおぶしけずり機、電気釜、電気テンピの三つを用いた場合と用いない場合とに分ける。実験の調理献立は、夕食を想定し、米飯、みそ汁(じゃがいも・わかめ)、オムレツと肉のソテー、つけ合わせ(きざみキャベツ・トマト)、とうなすの煮付け、即席漬(キャ